

選ばれた愛

森野 水琴

A Iのことを彼は愛と呼び、物語を紡ぐにあたつてのパートナーにしている。初めての物語は運命のふたりについて書くことである。

愛は彼のリクエストにより、彼の作品からふたりを選ぶことになり、「やらずの雨」の男女を選んだ。

会社の上司が結婚を世話してくれることになり、男は身辺整理のため女の家を駆け込む。男が別れ話をした途端に、やらせるものか、いかせるものか、と雨が降る。翌日も雨で男は帰れない。根負けして男が別れ話を撤回した。ようやく雨が止んだ。

ところが翌週、男は別の女の家で身辺整理に行く。

女は別れの手紙を書き、男の家に届ける。

上司が世話してくれた女性とは破談になった。

手紙を懐に男は女の家で再会する。

彼は愛の選択に満足した。物語としては完結しているのだが、運命のふたりであるか検証しなければならない。彼と愛が検討した結果、次の結論に達した。

男が女を選んだのではない

女が男を選んだのではない

ふたりが この愛にふさわしいと選ばれた